



松尾 豊

訪問看護ほほえみ
管理者

ほほえみ選手名鑑

松尾さんってどんな人？

ほほえみスタッフが語る
松尾さんのホント。

いつもみんなを気遣ってくれる人。

毎日忙しい中、「みんな変わらないですか？」「大丈夫ですか？」など、利用者さまとスタッフを気遣ってくださる優しい管理者さんです。訪問看護内にとって必要不可欠な方です。



スタッフ：嶋崎詩央里

ギャップが魅力です！

テキパキと管理業務をしている姿と、利用者さまに笑顔で寄り添っている姿のギャップが魅力です！「困っていることはない？」と声をかけてくれるので、安心して仕事ができます。



スタッフ：加藤恵美

誰の頼みごとにもノーと言わない。

わたしが子育て中のため、急な欠勤で迷惑をかけてしまい落ち込んでいたときも、優しい一言をくれました。いつも笑顔で誰の頼みごとにもノーと言わない、本当に頼れる存在です！



スタッフ：椋谷佑香

日々奮闘し、利用者さまへほほえみを

忙しい中でもわたしたちスタッフへの気遣いを忘れず、働きやすい環境を作ってくれる、頼りになる管理者さんです。利用者さまにほほえみを届けられるよう、日々奮闘されています。



スタッフ：加納有美子



地域福祉コミュニティ
ほほえみ

訪問看護ほほえみ



施設やお宅に訪問し、利用者さまの病気や障害に応じた医療的ケアや療養上のケアなど、ご希望に応じた看護サービスを提供します。住み慣れた場所で継続して生活できるよう、主治医との連携も図りながら在宅での療養生活を支え、健康状態の維持や回復に向けたお手伝いをします。

〒468-0012
名古屋市天白区向が丘四丁目922番地
ソートフルベース1B号室
TEL 052-715-8631 <https://hohoemi333.jp/>



地域福祉コミュニティ ほほえみ
公式インスタをフォロー！
hohoemi_syahuku33



松尾 豊 (まつお ゆたか)

愛知県豊田市出身

ニックネーム：まつっん、ゆたかさん

特 技 ：木登り、卓球

趣 味 ：アンティーク収集、国内旅行、スキー

好きな言葉：簡潔に

今欲しいもの：アンティークの木箱(モシュリンヌ)

尊敬する人：ナポレオン、マッカーサー

好きな映画・テレビ：遠くへ行きたい、道との遭遇

好きな食べ物：ラーメン

好きな場所：尾瀬国立公園、朝一番のスキー場

個人的な目標：ほほえみで新しいことにチャレンジする！

影響を受けたモノやコト：HUNTER×HUNTER

休日の過ごし方：庭の手入れ、ドライブ、ラーメン屋へ行く



プライベートの私

私のプライベートを
ちょっとだけ
ご紹介します。

国内旅行＋ラーメン研究



25年ほどかけて47都道府県を制覇しました。マイベスト観光地は、山形県の蔵王樹氷まつり、青森県のねぶた祭り、群馬県の尾瀬国立公園、富山県の黒部溪谷のトロッコです。また最近は毎週、妻と有名なラーメン屋さん巡りをしています。醤油・塩・味噌、ジャンルを問わず好きです。おかげでかなり太っちゃいました。

モシュリンヌ収集



モシュリンヌは、1800年代末～1900年代前半にスコットランドでつくられていた、お土産用の木箱等の総称です。すべて手づくりで同じものはないんです。海外のオークションとかも見ながら少しずつ集め、家のコレクション棚に飾って、日々眺めて癒されています。

筆の伝達のこけぞる

とリス「翼星ハート」：露留

法律家になって誰かを助けたい。

その思いは、やがて看護師として実を結んだ。

看護師として働く母親を見ながら、看護師だけにはなりたくないと思い、法曹を志した松尾。司法試験の勉強に明け暮れる20代を送りますが、結局看護の道へ。自分の中でそれを消化しきれない時期もあったという彼が、遠回りをしながらも、「看護師になって本当によかった」と思うようになるまでの半生を綴ります。



原点

母親が看護師だった松尾。不規則な勤務で疲れて帰ってくる母親の姿を見るにつけ、看護師だけにはなりたくないと思っていました。14歳のときに病気で姉を亡くした経験からも、人の死に立ち会わなければならない看護師の仕事は、やはりやりたくない仕事でした。ちょうどその頃テレビで「行列のできる法律相談所」や、検事が活躍するドラマ「HERO」が人気だったことなどから、法律家になって誰かの役に立ちたいと考えるようになり、大学の法学部に進みます。

松尾 豊 自筆年表



幼少期

1986年(6歳)

小学校入学。勉強もせず、校庭を駆けまわっていた。

1992年(12才)

中学校入学。部活は卓球部だった。中3の頃に法曹を志す。勉強は苦手だったが、高3のときに頑張る。



卓球部

1998年(18歳)

この地の大学の法学部に入学。けれども何となく違うと思い、東京の大学へ編入し、司法試験の勉強に邁進する。



大学時代

2006年(25歳)

お金がなかったため、大学4年の頃から、不動産の会社で正社員として働きながら試験勉強をするが、この頃から旅行の楽しさに目覚め、方向性を見失う。司法試験を断念。



大学院時代

2007年(27歳)

名古屋へ戻り、大学院でフランス法を学ぶ。研究室ではずっとYouTubeを見て過ごすが、なんとか無事に修了する。

2009年(29歳)

「人生まだ間に合うから、親不孝にならないで」と母親に説得され看護の道へ。日赤の学校で先生と現役ギャル集団にしばらくられる。

2013年(33歳)

大病院へ就職。大病院の看護師の能力の高さと社会の厳しさを改めて痛感する。



妻と私

2018年(38歳)

高齢者施設で正職員として働きながら、いろいろな施設でアルバイトをし、訪問看護の楽しさを知る。コロナ禍に妻と旅行へ行きまくる。



ほほえみで奮闘中

2023年(44歳)

訪問看護ほほえみの管理者となる。尿路結石と闘いながら奮闘中。



ほほえみ入社

看護大学卒業後、松尾は大病院や老人ホームで勤務します。また副業として、ほほえみでの訪問看護を経験し、その現場に心惹かれます。看護環境が整っている病棟や施設内とは違い、訪問看護では必要な器具が揃っておらず、点滴台がなければハンガーを利用したり、家にある100円均一の商品でまかなったりと、さまざまな工夫が必要で、それがとても楽しいものだったのです。その後、松尾は正式な職員としてほほえみグループに参加。そしてここで彼は、横のつながりを強く感じるようになります。これまで司法試験の勉強でも、老人ホームの管理者の仕事でも、頼れる人はいない、結局はひとりだと感じており、そんなものと割り切つていました。けれども、ここでは本当にみんなが助けてくれる、分らないことを相談できる、そんな経験をたくさんすることができました。いまでは仲間の存在をとても心強く思っています。

現在

いま松尾は、社会福祉法人地域福祉コミュニティほほえみで、訪問看護の管理者を務めています。ここには「10デイズチャレンジ」と呼ばれる企画があります。それは、特別養護老人ホームに新しく入られた方の夢や希望を、10日以内に叶えようというものです。医師と連携して急変に備え、また介護スタッフと協力して準備を整え、実現させます。大変ではあるものの、先日「鰻が食べたい」という夢を叶えた利用者さんが、ものすごく嬉しそうにしていたのを見て、この企画に携われてよかった、ほほえみグループに入って本当によかった、そう感じたと言います。以前は、法曹を志し打ち込んできたのに、なぜいま看護師をしているのか、そのことを朝起きるたびに思うこともありました。けれどもいまは、仲間を支えられながら、看護師として誰かを助けたり、役に立てたりすることの喜びを感じながら、充実した日々を送っている松尾です。

答え：「愛情と感謝を込めて看護を」

アモーレはイタリア語で「愛」などの意味に使われます。利用者さまをはじめ支えてくださっているすべての方に、愛情と感謝を込めて看護というサービスが提供できるよう個々のスタッフと共有しています。